

感染症一覧表

●医師記入による意見書(証明書)が必要な感染症

▲保護者記入による登園届が必要な感染症

高木保育園

病名	病原体	好発年齢	潜伏期	症状の特徴及び経過	季節流行	感染しやすい期間	死生	登園基準	その他注意事項
●麻疹 (はしか)	麻疹ウイルス	7~8ヶ月 2~4歳	7~18日	3~4日間の発熱、咳・鼻水・くしゃみ・目やに・結膜炎を起こす事もある	一年中みられる 特に5・6月に多い	発症1日前から発疹出現後の4日後まで(空気・飛沫・接触感染)	終生	解熱後3日を経過してから	肺炎・脳炎・中耳炎などの合併症を起こす事があるので、治るまで注意する
●水痘 (みずぼうそう)	水痘ウイルス 帯状疱疹ウイルス	2~6歳	10~21日	発熱不定	冬~春	発疹出現1~2日前から痂皮形成まで(空気・飛沫・接触感染)	終生	全ての発疹が痂皮になるまで	感染力は極めて強い 帯状疱疹と同じウイルスなので、初めて感染すると水痘になり、ウイルスは神経節に潜んでいて体調をくずすと帯状疱疹になる
●流行性耳下腺炎 (おたふく)	ムンプスウイルス	2~7歳に多い	12~25日	発熱・頭痛・嘔吐・腹痛・食欲不振などの症状が1~2日続く	一年中だが、真夏・真冬の2回ピーク	発症3日前から耳下腺腫脹後4日(飛沫・接触感染)	終生	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで	重症になると難聴や髄膜炎を起こす 思春期以降は睾丸炎・卵巣炎を起こし、男女共に不妊症になることもある
●風疹 (三日ばしか)	風疹ウイルス	2~4歳	14日~23日	発熱とともに発疹がでる	1~5月	発疹出現前7日~出現後7日間くらい(飛沫・接触感染)	終生	発疹が消失してから	脳炎や紫斑病を起こす事もある 妊娠初期の人が感染すると先天性異常児の出生率が高い
●百日咳	百日咳菌	乳幼児	5~12日	風邪症状	秋	抗菌剤を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで(飛沫・接触感染)	終生	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌物質製剤による治療を終了するまで	激しい咳は3~4週間 肺炎、脳症を起こすこともある
●流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス 8・19・37型		2~14日	目がゴロゴロして痛くて、痒い	1年中 特に夏~秋	充血、目やに等、症状が出現した数日間(接触・飛沫感染)		感染力が非常に強いため、結膜炎の症状が消失してから	集団発生することがある 角膜炎を起こし、稀に視力低下あり ウイルスは1か月排泄させる 手洗い励行
●咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス 3・4・7・11型		2~14日	39℃前後の発熱、咽頭炎が3~7日続く	夏	発熱、充血等症状が出現した数日間(飛沫・接触感染)		主な症状が消え、2日経過してから	冬でも流行することがある 治った後も便の中にウイルスが30日間程度排泄される
●インフルエンザ	インフルエンザウイルス		1~3日	突然の高熱、咳、咽頭痛、頭痛、嘔吐、下痢を伴う倦怠感	秋~冬	発症前1日~発病後3日までが感染力強い(飛沫・接触感染)		発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで	脳炎・肺炎・熱性けいれんの合併症に注意
●手足口病	コクサッキーウイルスA群16・6・10型 エンテロウイルス71型	1~2歳	3~6日	水疱性の発疹が口腔粘膜、四肢末端に出現	夏	手足や口腔内に水疱、潰瘍が発症した数日間(飛沫・接触・経口感染)		発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事ができること	回復後も呼吸器から1~2週間、糞便から2~4週間ウイルスが排泄される エンテロウイルス→髄膜炎、脳炎・コクサッキーA6型→爪剥離みられることがある
●伝染性膿痂疹 (とびひ)	黄色ブドウ球菌 溶血性連鎖球菌		2~10日	皮膚が赤くなり、次第に米粒大の水疱になり、大きくなっていく	夏	効果的治療開始後24時間まで(接触感染)		皮疹が乾燥している患部を全て覆えること 広範囲の場合休園	急性腎炎の合併症を起こす事もある 治癒するまではプールは禁止する
▲突発性発疹	ヒトヘルペスウイルス6・7型	1歳以下が多い	約10日	突然38℃以上の高熱が約3日続く 軟便になることあり		発熱中は感染力あり(飛沫・経口・接触感染)		解熱し機嫌が良く、全身状態が良いこと	4~5日位で自然治癒する 2回罹患することもある
▲伝染性紅斑 (リンゴ病)	ヒトパルボウイルスB19	幼児~学童	4日~14日	発熱は37℃くらい 顔・両頬に紅斑(蝶のような形)	冬~春	発赤疹出現前1週間(飛沫感染)		全身状態が良いこと 発疹出現時には感染力は消失している	アレルギーと間違ひやすい 手足に網目状の紅斑が出る事もある 妊婦の罹患により流産等起こる
▲溶連菌感染症	溶血性連鎖球菌	幼児~学童	2~5日	高熱の半日後、首、胸、下肢に掻痒感のある粟粒大の発疹		適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間(飛沫・接触感染)		抗菌薬内服後24~48時間経過していること	腎炎、リウマチ熱などの合併症に注意 抗菌薬を指示通り最後まで飲む
▲ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群	1~4歳児に好発	3~6日	38℃~40℃の高熱が1~3日続く	夏(6月~8月)	急性期の数日間(便の中1か月程度ウイルスを排泄している(飛沫・接触・経口感染))		発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	咽頭痛、嚥下痛がひどくなり、食事、水分が取れず、脱水症になることもある 回復後も呼吸器から1~2週間、糞便から2~4週間ウイルスが排泄される

★ 感染症の病気にかかった時は、速やかに医師の治療を受けてください。

●印の感染症に罹患した際、治癒の診断を受け、医師の意見書(証明書)を持参の上、登園となります。(用紙はコピーしてお使いください。医療機関にある学校医会の証明書でもOKです。)<医師記入>

▲印の感染症に罹患した際、医師から登園の許可を得て、登園届に保護者が記入し持参の上、登園するようにお願い致します。(用紙はコピーしてお使いください。)<保護者記入>